

調査にご協力いただいているモニターの皆さまへ



東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究
「子どもの生活と学び」研究プロジェクト

ニューズレター

2024年
3月発行

日ごろより調査にご協力いただいているモニターの皆さまには、本プロジェクトの活動にご理解をいただき、誠にありがとうございます。

2023年7～9月に実施した「子どもの生活と学びに関する親子調査2023」は、これまで同様に多くの方にご回答いただき、成果を発表することができました。また、2024年2～3月にも、一部の方を対象にした調査を実施しています。ご回答をいただいた方々には、重ねて御礼を申し上げます。

皆さまのご協力のおかげで、たくさんの教育関係者や研究者がこれからの教育のあり方を考える資料として、この調査データを活用しています。

今回のニューズレターでは、「モニターの皆さまへのお知らせ」とともに、調査からわかった最新の結果をピックアップしてお届けします。お子様の教育や子育ての参考にさせていただければ幸いです。

モニターの皆さまへのお知らせ

●調査の進行状況

調査名	実施時期	進行状況	ご協力をお願いする方
子どもの生活と学びに関する親子調査2023	2023年 7～9月	終了	小学1年生～高校3年生のお子様と保護者の方 (小1～3生は保護者の方のみ)
高校生活と進路に関する調査	2024年 2～3月	終了	高校3年生のお子様
若者の生活と学びに関する調査	2024年 2～3月	終了	19歳相当の方
子どもの生活と学びに関する親子調査2024	2024年 7～9月	実施予定	小学1年生～高校3年生のお子様と保護者の方 (小1～3生は保護者の方のみ)

※2024年も夏にモニター全員を対象にした調査を実施予定です。

●研究結果の活用

調査結果は、東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所のWEBサイトで公開し、いつでも閲覧いただけます。

また、国内の主要な新聞、テレビ、インターネットニュースなどでも数多く取り上げられています。

2024年2月には、本プロジェクトの2冊目の書籍(『パネル調査にみる子どもの成長—学びの変化・コロナ禍の影響』勁草書房)を刊行しました。



重要 ●登録情報の変更のお願い

1) 住所や電話番号に変更のある方は、必ず登録情報変更をお願いいたします。

調査依頼などを確実にお届けするために、ご協力をお願いいたします。

2) メールアドレスのご登録がまだの方は、ぜひご登録ください。

今後はメールでも、調査のご依頼や調査結果のお知らせなどを差し上げます。皆様には継続してご協力をお願いしたく、お手数をお掛けしますがメールアドレスの登録をよろしくをお願いいたします。

登録情報の変更

メールアドレスの登録

「子どもの生活と学び」研究プロジェクトのWEBサイトから変更・登録ができます

●変更・登録→[こちらのページ](#)からお進みください

●スマートフォン、タブレットは、右のQRコードからもページにアクセスできます。

※ 上記の方法が難しい場合は、フリーダイヤル「0120-105506」(通話料無料/月~金10:00-12:00、13:00-17:30/携帯電話からもご利用になれます)までご連絡ください。



 次のページでは、最新の調査結果をピックアップしてお届けします

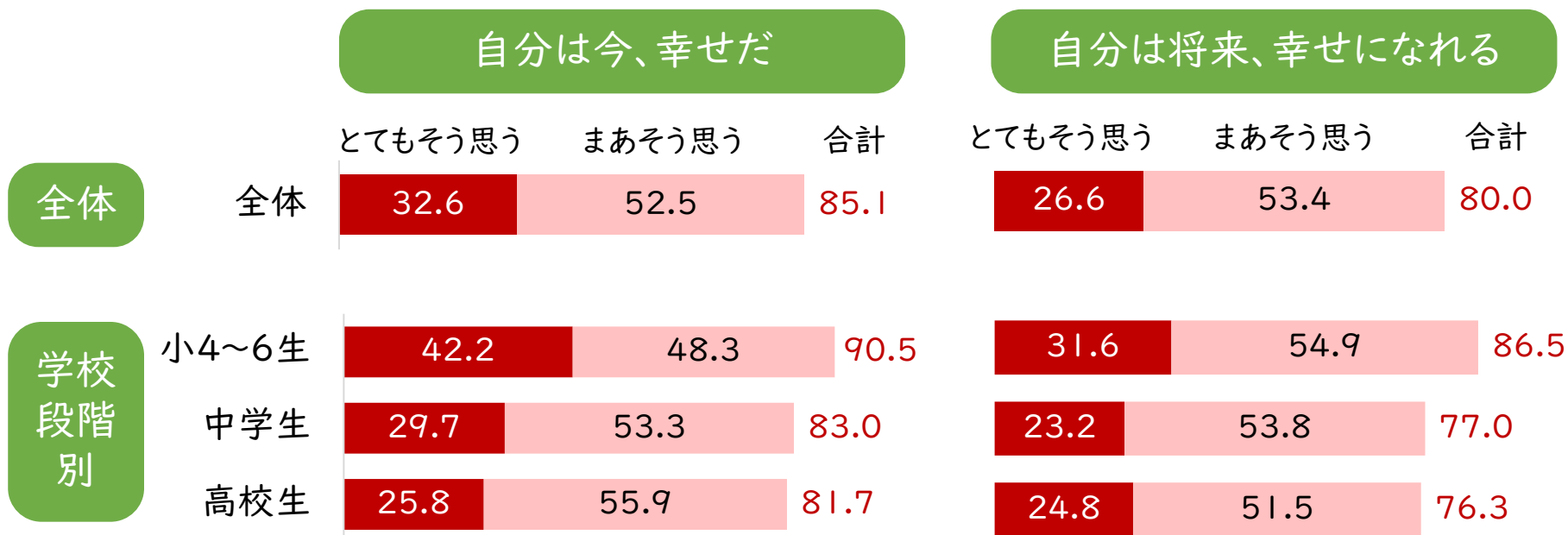
「子どもの生活と学びに関する親子調査2023」 調査結果のご紹介 (2023年7～9月実施)

調査にご協力を
いただいた皆さま
ありがとうございました!

ここでは、2023年に実施した調査から、親子の意識や行動についての結果をみていきます。
まずは、子どもの「幸せ実感」に関するデータです。

①子どもの「幸せ実感」

子どもたちの8割が、「自分は今、幸せだ」「自分は将来、幸せになれる」を肯定しています。
この「幸せ実感」は、小学生から中学生になると少し低下するようです。

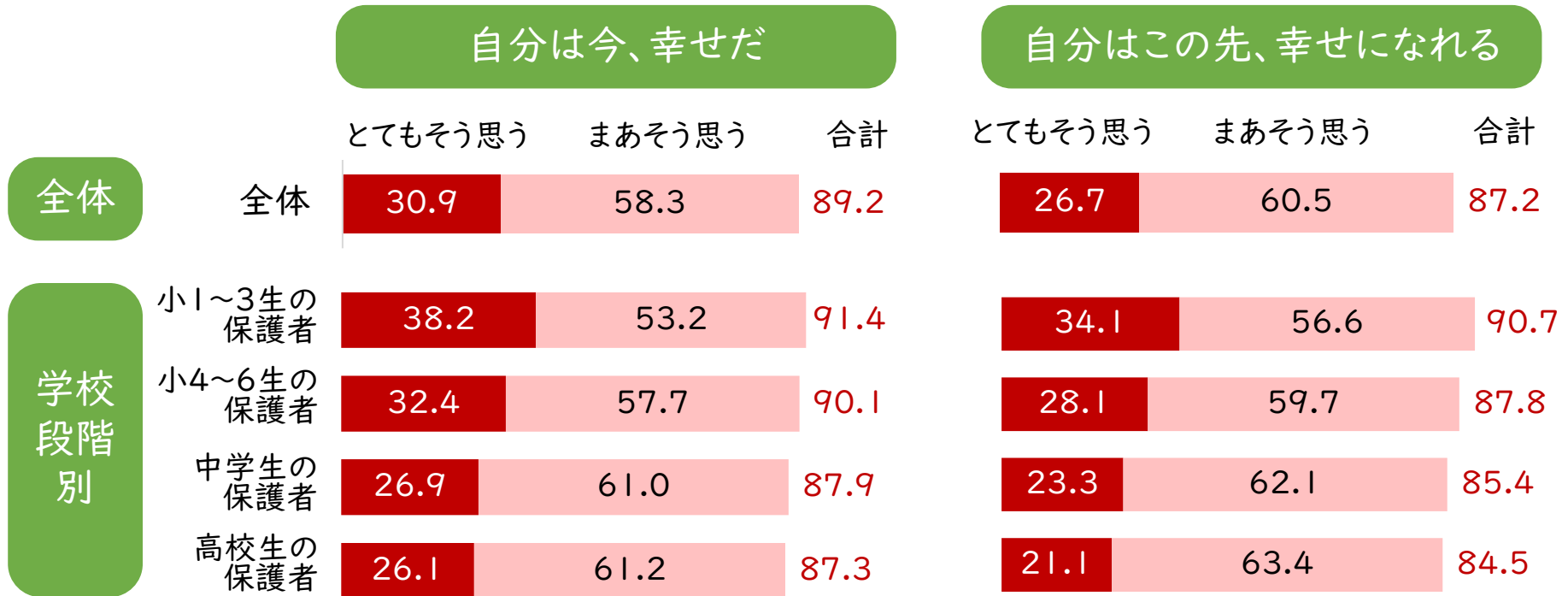


*「あなたは、次のことについてどう思いますか」という設問の回答(%)。「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」は図から省略した。

*小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

②保護者の「幸せ実感」

保護者は9割弱が、「自分は今、幸せだ」「自分はこの先、幸せになれる」を肯定しています。保護者の「幸せ実感」も、子どもの学年が上がるにしたがって低下する傾向がみられます。



*「あなたは、次のことについてどう思いますか」という設問の回答(%)。「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」は図から省略した。
*小4~高3生の保護者の回答。保護者全体の数値は、小1~3生:小4~6生:中学生:高校生=1:1:1:1になるように重みづけを行った。

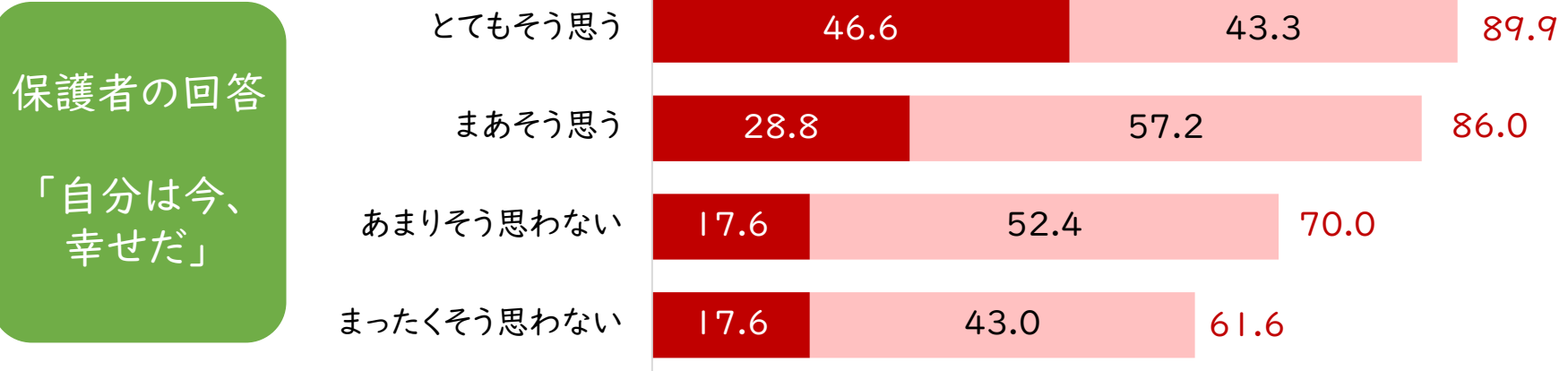


子どもも保護者も8~9割が「今、幸せだ」「将来(この先)、幸せになれる」と回答しています。ただし、この「幸せ実感」は、親子ともに年齢が上がると、少し低下していきます。

③保護者と子どもの「幸せ実感」の関連

保護者が「自分は今、幸せだ」を肯定していると、子どもも肯定する傾向がみられます。保護者と子どもの「幸せ実感」は、相互に関連しています。

子どもの回答 「自分は今、幸せだ」



*「あなたは、次のことについてどう思いますか」という設問の回答(%)。子どもの回答の「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」は図から省略した。
*小4～高3生の子どもと保護者の回答。数値は、小4～6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

保護者自身が幸せを実感できるような充実した生活を送ることが、子どもの「幸せ実感」にも影響すると考えられます。



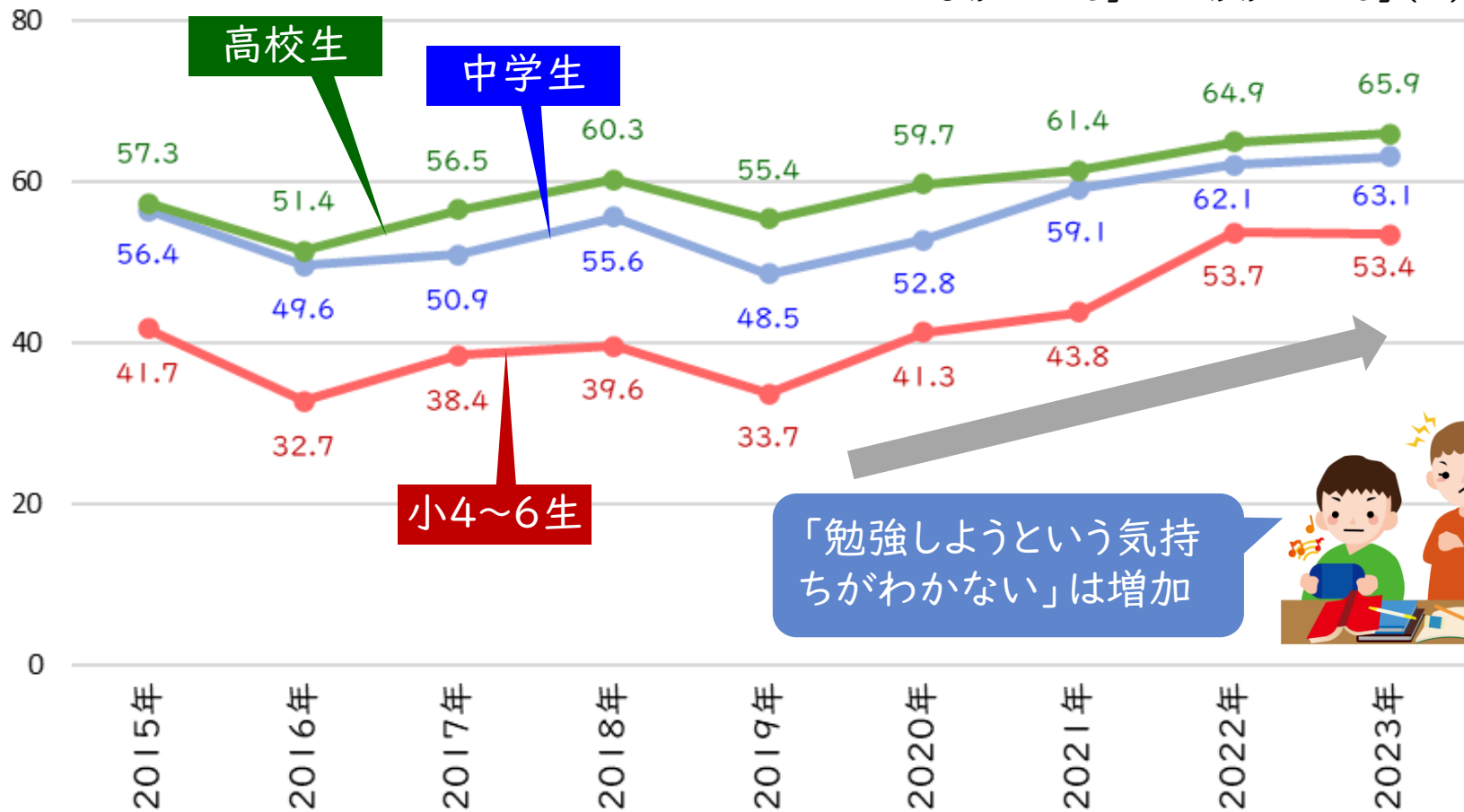
④子どもの学習意欲

次に、子どもの学習に対する意識や行動についてみていきましょう。

下の図は、「勉強しようという気持ちがわからない」について、2015年から23年までの変化を示しています。これをみると、近年、肯定する子どもが増えていることがわかります。

子どもの回答 「勉強しようという気持ちがわからない」

「とてもあてはまる」+「まああてはまる」(%)



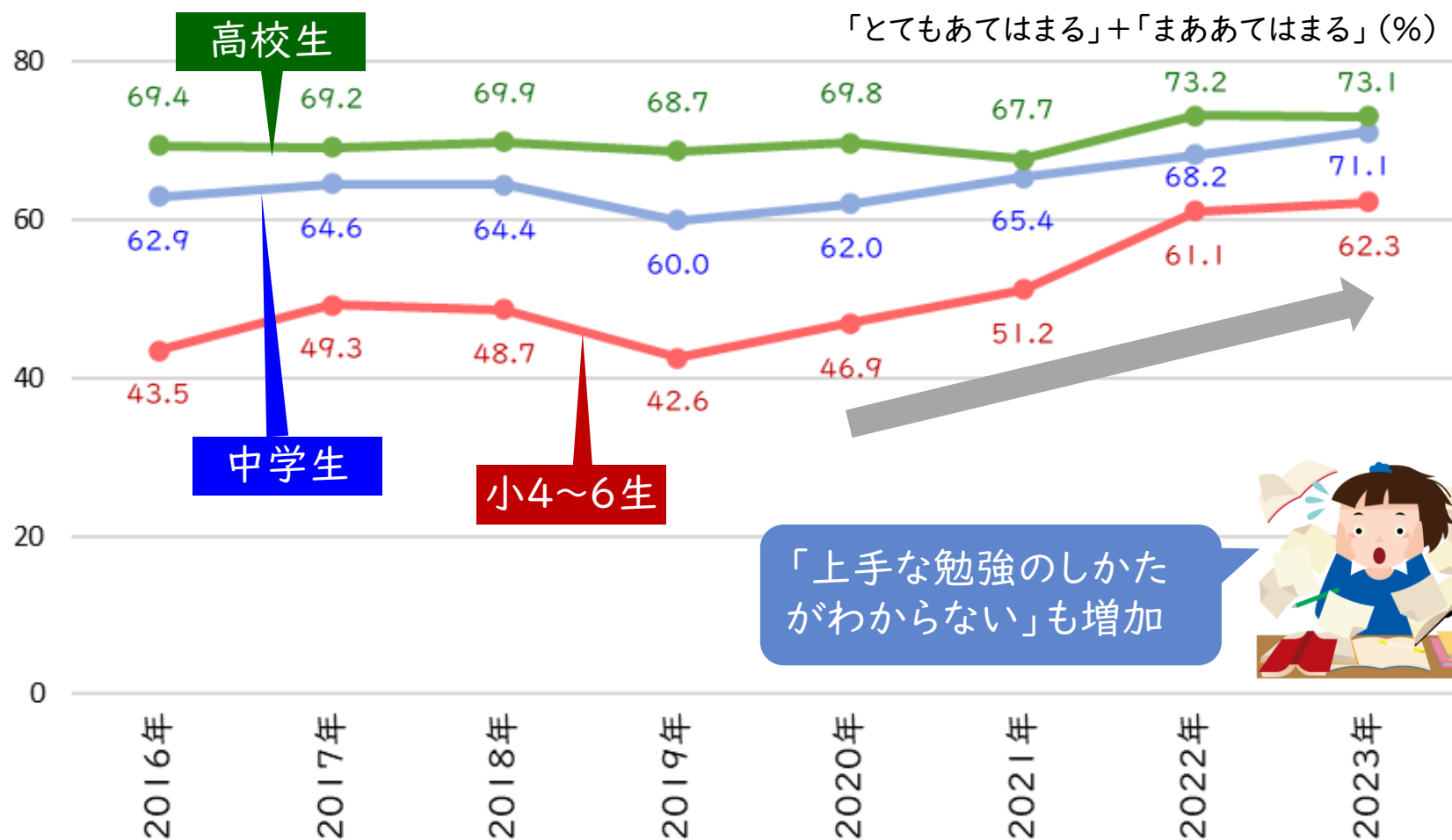
「勉強しようという気持ちがわからない」は増加



⑤ 学習方法の理解

下の図は、「上手な勉強のしかたがわからない」について、2015年から23年までの変化を示しています。この項目も肯定する割合が増えている、6~7割の子どもが学習方法に悩んでいることがわかります。

子どもの回答 「上手な勉強のしかたがわからない」



「上手な勉強のしかたがわからない」も増加

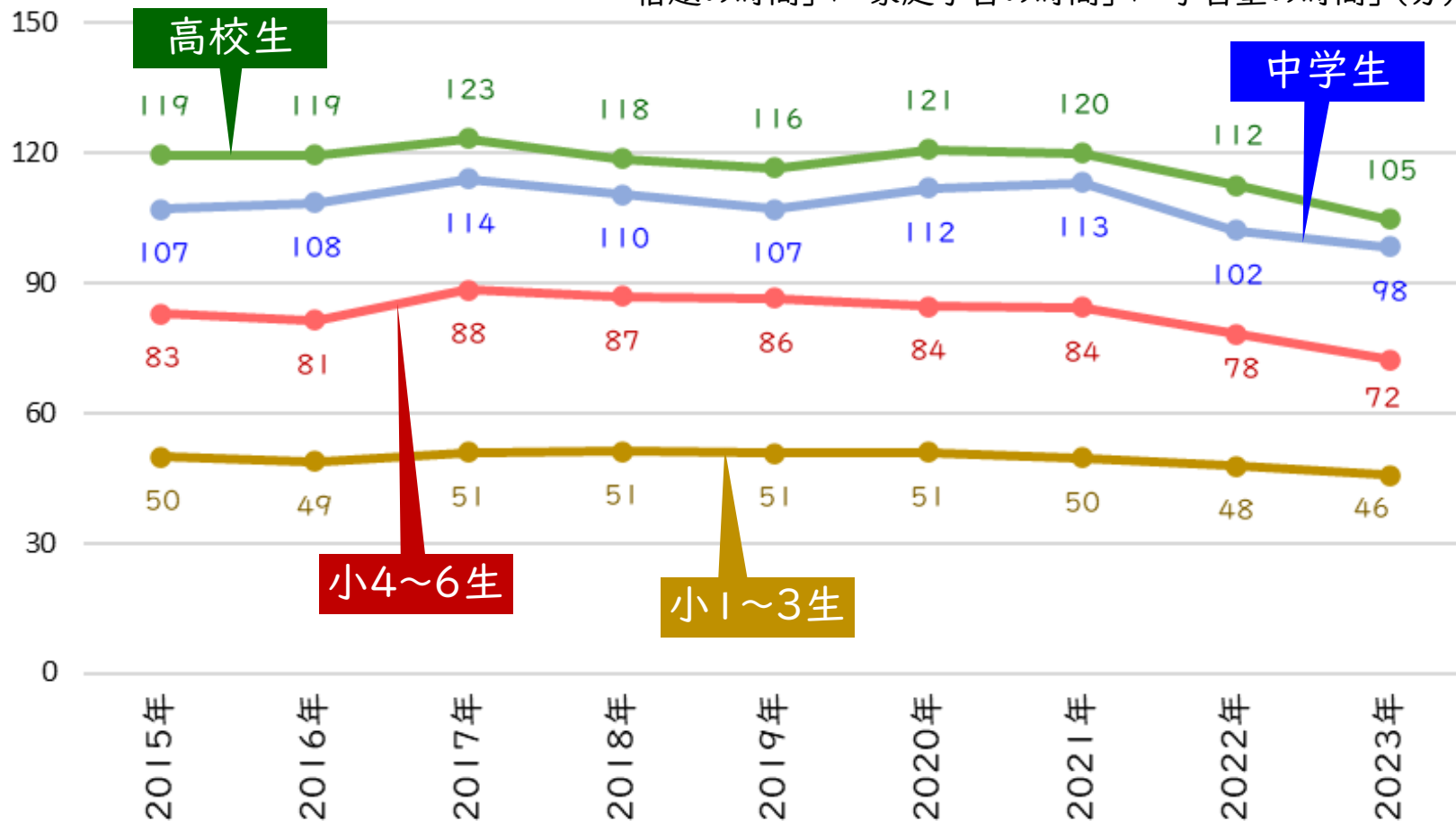


⑥学習時間

下の図は、1日あたりの学習時間を示しています。宿題の時間、家庭学習の時間、学習塾の時間の合計(分)です。これをみると、2015年から21年のあたりまではほぼ横ばいで推移していますが、21年から23年にかけて学習時間が減少する傾向がみられます。

子どもの回答 学習時間(1日あたり)

「宿題の時間」+「家庭学習の時間」+「学習塾の時間」(分)



調査結果について

調査の結果をご覧になって、どのように感じられたでしょうか。

保護者も子どもも、8~9割が「今、幸せ」「将来、幸せになれる」と回答していて、多くの親子が幸せを実感しているようです。

その一方で、学習面をみると、「勉強しようという気持ちがわからない」「上手な勉強のしかたがわからない」が増えている、学習に悩む子どもが多いこともわかります。実際に学習時間も減少傾向です。



4月は多くのお子様が進級・進学を迎え、新しい環境での生活がはじまる時期ではないかと思えます。保護者の方も、お子様の様子に変化がないかを気にかけて、学校での様子や学習の状況について、お子様にたずねてみてください。

新しい年度を迎えたこの1年が、皆さまにとって充実したものになることをお祈りいたします。

調査結果の詳細

「子どもの生活と学び」研究プロジェクトのWEBサイトでご覧いただけます

[こちらのページ](#)をご覧ください

「子どもの生活と学び」研究プロジェクト お問い合わせ窓口
フリーダイヤル：0120-105506 (通話料無料)

●月曜日～金曜日 10:00～17:30 (12:00～13:00、土日祝日を除く)

●携帯電話からでもご利用になれます。